

KAKKIN

ニュース

2024年9月13日 発行
No.96

National Council for Peace and Against Nuclear Weapons (KAKKIN)

—核のない未来を創る
100年先の平和のために—

主な内容

- 原爆投下79年 核兵器の廃絶を訴える平和集会を開催
 - ・ 広島平和地方集会
 - ・ 長崎平和全国集会
 - ・ 平和集会アピール
- 連合の平和集会に参加
- 女性懇談会を開催
 - 敦賀と長崎で

原爆投下79年 核兵器の廃絶を訴える

— 平和集会を開催 —

KAKKINは8月5日(月)に広島平和地方集会を、また8月8日(木)に長崎平和全国集会を開催し、参加者全員で核兵器のない世界の実現を誓った。

広島平和地方集会

冒頭、主催者を代表して**永山博之**KAKKIN広島議長(広島大学大学院教授・KAKKIN副議長)は「ロシアのウクライナ侵略によって核兵器は有用と考える国があり、その存在意義を下げていくことがなかなか進まない」と述べ、核軍縮・核廃絶の動きが停滞している現状に危機感を示し、志を合わせて運動をすることの大切さを訴えた。被爆者支援については、いま広島県には約51,000人の被爆者がいるが、医療・援護団体を通してこれからもしっかりと活動を続けたい、と挨拶した。

また本部を代表して**渡邊啓貴**議長は「この2年半ほど核兵器廃絶の考え方を内部で議論をしてきたが、一定の整理がついた」として、これを踏まえてどのようにして運動を活性化させるかを考えなければならないと述べた。さらに10月には2018年以来6年ぶりに韓国

被爆者支援の団を派遣することに触れ、協力を求めた。

カンパ金(医療器具)は、広島赤十字・原爆病院、被爆者団体を管轄する広島市、医療法人財団愛人会、特別養護老人ホーム清鈴園の4団体に贈呈し、代表して広島赤十字・原爆病院の古川善也院長より謝辞を受けた。また、広島市より感謝状を拝受し、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した。

この後、第二部として**永山議長**から「日本『反核』運動の歴史～1950年代から現在まで」と題した講演が行われた。いま日本には核兵器廃絶を目指す団体は3つ(KAKKIN、原水禁、原水協)があるが、目的が同じであるにもかかわらず、なぜ別々に運動しているのか。そこに至る背景、経緯と原子力の平和利用に対する考え方の違いについて話があった。また既存3団体以外の新しい「反核兵器」団体の動きにも話がおよんだ。



KAKKIN 広島
永山議長



KAKKIN 本部
渡邊議長



来賓
玉木雄一郎・衆議院議員
(国民民主党代表)



広島赤十字・原爆病院へ贈呈



来賓
森本真治・参議院議員
(立憲民主党)



来賓
平林晃・衆議院議員
(公明党)



永山議長の講演

長崎平和全国集会

集会は長崎市立長崎中学校音楽部「爽（そう）」による“にじ”“クスノキ”“千羽鶴”の3曲のハンドベル演奏で開会した。

第一部として和田修一氏（平成国際大学名誉教授・KAKKIN副議長）が「核軍縮と首脳外交：冷戦末期の軍備管理と核軍縮から何を学ぶべきか」と題して講演を行った。1962年のキューバ・ミサイル危機で米ソが核戦争直前になったことを話の起点に、軍備管理の考え方や核兵器不拡散条約の発効とその限界、米ソ首脳外交による核軍縮成功の要因といった歴史を振り返り、今すべきこととして、核軍縮の理論構築と国際世論



和田副議長の講演

の喚起および信頼醸成構築のための外交推進と国際的枠組みの強化を指摘した。第二部の式典では、KAKKIN長



市立長崎中“爽”のハンドベル演奏

崎を代表して松尾敬一議長は、いまの核兵器を巡る状況はキューバ危機以来の厳しさだとしたうえで、自身の被爆体験を踏まえ「一般市民を無差別に殺戮するのが核兵器だ。絶対に無くさなくてはならない」と核兵器廃絶運動の強化を訴えた。

次に本部の渡邊啓貴議長のあいさつの後、来賓の鈴木史朗・長崎市長は、いま核兵器の脅威が一段と高まっているとし「軍拡や威嚇ではなく対話と外交努力により平和的な解決への道を探るべきだ。そして、長崎を最後の被爆地にするために、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて行動する」と挨拶した。なお鈴木市長からは、KAKKINのカンパ活動に対する感謝状を頂戴した。

またカンパ金（医療器具）を恵の丘長崎原爆ホーム、長崎原子爆弾被爆者対策協議会、長崎純心大学、佐世保市総合医療センター、長崎原爆資料館の5団体に贈呈し、代表して感謝の言葉を堤房代・恵の丘長崎原爆ホーム施設長より受け、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した。



KAKKIN 長崎
松尾議長



支援組織代表
UA ゼンセン松浦会長



来賓
玉木雄一郎・衆議院議員
(国民民主党代表)



来賓
秋野公造・参議院議員
(公明党)



鈴木長崎市長から感謝状

KAKKIN役員が献花

8月8日午前、渡邊議長をはじめ KAKKIN 役員は長崎市平和公園にある平和の泉に献花し、黙禱をささげた。



令和6年 KAKKIN平和集会アピール

本日、KAKKIN平和集会の開催にあたり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の意をささげますとともに、新たな決意で核兵器廃絶に向けて運動を進めていくことをここに誓います。

「広島、長崎の悲劇を二度と繰り返してはならない」－誰もがこう願っているにもかかわらず、核兵器を巡る状況は危機的です。スウェーデンのストックホルム国際平和研究所によれば、2024年1月現在、世界にある核弾頭の数約12,100発で、昨年に引き続き減少しています。しかし運用可能な核弾頭数は年々増加し続けており、この研究所は「各国が核抑止力への依存を深めている」と懸念を示しています。とりわけ中国は昨年より90発増え、「どの国よりも核戦力を速く拡大させて」おり、北朝鮮も前年より20発増の50発を保有し、今後も増加が予想されます。またロシアは、5月にウクライナ国境近くで戦術核兵器の使用を想定した演習を行いました。

残念ながら今すぐにこの厳しい状況を変えることは難しいですが、そのような中であって大事なことは、やはり私たち一人ひとりが核兵器と世界情勢に関心を持ち、声を上げ続けることです。そしてKAKKINは核軍縮の枠組みである核兵器不拡散条約を維持・強化し、実行可能な核軍縮策を積み上げることによって核兵器のない世界が実現することを強く求めていきます。

一方、エネルギー事情に目を向けると、日本はいくつかの課題に直面しています。

一つは、電気料金が上がっていることです。二つ目は、原子力発電所の稼働遅れや、火力発電所の休廃止によって電力の供給力不足が常態化しています。三つ目は、ロシア・ウクライナ戦争のように、世界のどこかで戦争が起きるとエネルギーの安定調達がままならなくなる、すなわちエネルギー安全保障の問題です。そして四つ目として、世界的な脱炭素の流れにどう対応していくのか、ということがあげられます。

これらの問題解決のためには原子力発電の最大限の活用が不可欠で、政府も昨年、脱炭素電源として再生可能エネルギーとともに、原子力を中長期的に活用していく方針を明確にしました。そして今年5月から、国のエネルギー政策の指針であるエネルギー基本計画の改定議論が始まっています。次の計画では、原子力の位置づけと将来性を明示してもらわねばなりません。

私たちはあらためて核兵器廃絶と原子力の平和利用推進の意義を再確認し、真に平和で豊かな世界を実現するため、これからも運動を進めていくことを決意します。

核兵器廃絶・平和建設国民会議

令和6年8月5日 広島平和地方集会

令和6年8月8日 長崎平和全国集会

連合の平和集会に参加

KAKKINは連合の平和集会に共催団体として参加し、8月5日の広島集会と8月8日の長崎集会で渡邊議長が登壇した。

連合集会では、広島、長崎の連合代表者に続いて、芳野友子会長があいさつをした。その後被爆体験証言、講演等が行われた。



広島集会

(参考)

・広島での講演
「被爆80年に向けて 被爆地広島の課題と役割」
中国新聞特別論説委員 宮崎智三氏



長崎集会

・長崎での講演
「地球の健康/人間の健康 そして核廃絶」
長崎大学核兵器廃絶研究センター長 吉田文彦氏

女性懇談会を開催 — 敦賀と長崎で

KAKKINは今年度第1回女性懇談会を6月19日に福井県敦賀市で、ついで第2回を8月7～8日、長崎市で開催した。

<第1回女性懇談会 日本原子力発電(株)敦賀発電所を視察>

■発電所の概要

- 日本原子力発電(株)は、1957年に設立された原子力発電専門の電力卸売り会社で、茨城県東海村と福井県敦賀市に原子力発電所を持つ。
- 敦賀2号機(加圧水型、PWR)は定格出力116万kWで、関西、中部、北陸の各電力会社に電気を供給している。なおこの出力は、北陸電力志賀2号機(135.8万kW、審査中)、関西電力大飯3、4号機(各118万kW)に次ぐものである。現在2号機は再稼働に向け、原子力規制委員会による安全審査が行われている。(注:原子力規制委員会は8月28日、2号機の再稼働を認めない判断を示す審査書の案をとりまとめた)



■発電所の視察

当日は2号機の原子炉格納容器と使用済燃料プール、次いで1号機の原子炉建屋、タービン建屋を視察した。特に管理区域へも立ち入りの際は、厳重な本人確認と徹底した放射線防護対策がとられており、私たちも白衣を着用したうえで、所定の手袋をつけ、靴下を交換し、靴を履き替えた。そして出るときは逆の手順を踏み、最後に被曝量のチェックがあった。

なお1号機では制御棒を動かす装置やタービン・発電機が撤去されるなど、廃止措置工事が着々と進んでいた。



<第2回女性懇談会 長崎平和全国集會に参加>

8月7～8日、第2回女性懇談会を長崎市で開催した。7日は昼に長崎空港に集合した後、三菱重工長崎造船所を見学し、新型護衛艦の連続建造の様子などを見ることができた。

8日は午前中、平和公園を訪れ、平和の泉に献花をした。この泉は被爆者の慰霊と世界平和を願って、KAKKINが昭和44(1969)年に建設し、長崎市に寄贈したものである。なお泉には、長崎市の9歳の少女の手記が刻まれた石碑が立っている。

「のどが乾いてたまりませんでした

水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました

どうしても水が欲しくて

とうとうあぶらの浮いたまま飲みました」

また公園内には平和の樹や平和の森と名付けられたKAKKINが植樹し



平和の泉に献花

た木々があり、運動の先人たちの活躍に敬意を表した。次いで原爆資料館に移動し、被爆の実相について理解を深めた。なお館内では、UAゼンセン長崎県支部の田栗恵さんに案内役を務めていただいた。そして午後からは平和全国集會に参加した。



三菱長崎造船所・旧木型場(現資料館)前で

発行 **核兵器廃絶・平和建設国民会議**

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階
Tel.03-3454-3461 Fax.03-3457-5280

・発行責任者 渡邊 啓貴 ・編集者 岩附 宏幸

Facebook 核兵器廃絶・平和建設国民会議のページ



KAKKIN ホームページ



YouTube KAKKIN チャンネル

